

サーベイランス強化での今後の検討課題

I. サーベイランスにおける課題

- ・野生いのししでの豚熱・アフリカ豚熱対策の強化が必要。
 - ・サーベイランスは各種対策を検討する上で必須の取組。
 - ・一方で、予算・人員は限られている。
- ▶ 強化のためには、特に採材における省力化・効率化が必要。

II. 解決案

耳介検査の捕獲個体への適用範囲の一部拡大を検討することはどうか。

III. 具体化の方向

1 血液検査については、以下の①～⑤の観点から、通常実施するサーベイランスとしては、少なくとも最低目標頭数（299頭）について実施。

- ①免疫獲得や慢性経過等の可能性があるウイルス量が極めて少ない感染事例が一部地域で増加している状況で、この検証のためにも抗原検査とともに抗体検査の重要性が指摘されていること
- ②経口ワクチンの効果検証に必要であること
- ③汚染状況を改善する段階で抗体検査の重要性が増すこと
- ④分子疫学的な分析のため、ウイルス分離が必要な場面も想定されること
- ⑤新規発生地域でのサーベイランス強化（CSF防疫指針第23又はASF防疫指針第24による浸潤状況確認）では、血液検査が必要となること

2 検査数を増加させる場合・血液検査が困難な場合では、遺伝子検出検査で耳介を用いることを可能とする

IV. 実施に向けた道行き

- ・検査検体として、血液に耳介を加える。
- ・捕獲個体の血液検査と耳介検査でのCT値によるウイルス遺伝子量の比較検討。
- ・コンベンショナルPCRで陽性となり十分にシーケンスが可能な血液でのCT値の範囲で、当該個体の耳介を用いたリアルタイムPCRで許容できるものかどうか。